

「協同労働」と
農・林福連携で
活性化する
地域コミュニティづくり



労働者協同組合ワーカーズコープセンター事業団
登米鱒淵事業所ことり～呼人里～
竹森 幸太

東日本大震災を通じたワーカーズコープの取り組み

・「仕事おこし・まちづくり」の協同組合

ワーカーズコープとは、働く人々、市民がみんなで出資し、市民自身の手で地域に役立つ仕事をおこす協同組合です。

・2011年7月東北復興本部を仙台市に設置

全国の仲間の緊急的な一時支援から本格的な仕事おこしの取り組みをスタートさせる。支援される側だった人（受け身、施し）が主体的に自らの働く場を創ることに挑戦。

・宮城・岩手において6カ所の仕事おこしが実現

東北の豊かな資源や土壌を生かして、共生型の福祉、食や農、若者や困窮者支援などの事業が広がり、その仕事を地元の人々が担っている。

宮城県登米市内の事業

部門名	事業内容	開設年月	仲間の人数
はっぴいデイ（R6.6.30閉鎖）	高齢者デイ	2013年1月	7名
心りっぷる	障がい者就労	2014年1月	8名
	放課後等デイ	2014年3月	5名
	農カフェ	2016年1月	2名
呼人里（ことり） SKETCHA（すけっちゃ）	林業	2014年10月	3名
	障がい者就労	2021年10月	5名
	生活支援	2017年8月	

宮城県登米市の概況



- 平成17年9町が合併し現在の登米市となった。
- 人口—72,622人（27,166世帯）
人口は毎年約千人が減少し続けており、世帯数は人口の推移と比較して大きな変動はない。
- 高齢化率 35.5%、山間地域においては42.5%
- 鱒淵地区（4集落） 628人、262世帯
- 産業別の就業者は、第3次産業に従事する割合が55.4%と一番多く、第1次産業の就業者は、14.1%で20年間で4割まで減少しているが、県全体の割合5.0%を大幅に上回り、登米市の基幹産業といえる。

参考資料：

住民基本台帳人口および世帯数、第二次 登米市総合計画

「マピオン」 (2022.9.2アクセス)

< <http://www.mapion.co.jp/map/admi04.html> >

これまでの登米鱒淵事業所の取り組みのターニングポイント①

●2014年10月に緊急雇用創出事業において、放置林の課題に取り組むため自伐型林業の仕事おこしに挑戦

- 全員が素人、技術・気概もない、仕事場（山）もない状態
- 通信を集落全戸に手配りする、地域行事に積極的に協力
- 徐々に草刈り、山の仕事預けられるようになる

これまでの登米鱒淵事業所の取り組みのターニングポイント②

●2016年度に総務省の「小さな拠点事業」に取り組み、森林塾（聴き取り）、竹細工講座、地域の将来予測WS、小さな拠点フォーラムなどを経て

- 鱒淵は、毎年2軒の移住者で子どもの数が維持できる
- 若い世代の価値観の変化...山村での暮らしは「自分の暮らしをつくることができる」
- ワークスコープが新しい働き方・新しい分かち合いをどうつくるのか

これまでの登米鱒淵事業所の取り組みの ターニングポイント③

●住民とともに、「小さな拠点事業」の取り組みを振り返りとこれからの地域づくりを考える機会に

- 移住したくなる地域づくり...美しい暮らし
- 暮らしと自治をつくること
- 旧鱒淵保育所を拠点にして
...集まれる場・仲間づくり、
困りごとが持ち込まれる



これまでの登米鱒淵事業所の取り組みのターニングポイント④

2017年4月地域おこし名人・達人サミットを開催

- 地域実行委員会をできる限り丁寧に開催し、初めて住民とともに、地域づくりのための催しとなった。
- 小さな拠点フォーラムでは、住民から「この地域には山しかない。なんでこんな所に来るのだろう」との声があった。
- しかし、全国から訪れた参加者からのこの地域の食文化、達人の技術、住民の人柄など、絶大な評価を頂く。
- ここが住民の疑心が確信に近い、自信へとつながる。



これまでの登米鱒淵事業所の取り組みのターニングポイント⑤

●住民とワーカーズコープが地域づくりに力を合わせる組織「鱒淵地域住民自治推進協議会」を発足

- 2017年度から「都市農村共生・対流事業」に取り組む。
- 仙台市児童館デイキャンプの取り組みを通じて、「田んぼの楽校」の取り組みに発展。
- 母ちゃん達の「畑の教室」に引きこもりであった若者が自信を取り戻し元気に。
- これまで自治会長が地域の役をいくつも抱えていた。そして、人口減少が進むにつれて、これまでの地域行事が一つ、またひとつ開催できなくなっていった。「ワーカーズコープがいたら自分たちのやりたかった地域づくりができるかもしれない（ミニデイ）」。

鱒淵の今のテーマ

●2021年10月に障害者就労継続支援B型事業の呼人里（ことり）を開設。

- 林業×障がい者就労×地域づくりを焦点に、新しい付加価値のある仕事づくりと地域の困りごとを仕事に変える。
- 林業部門はこれまで針葉樹の切り捨て間伐を主な仕事として行ってきたが、今年度から広葉樹の間伐を始め、薪づくりなどの仕事生まれ始め、林業と就労支援の事業があるからこそできる仕事づくりが少しずつ展開されるようになった。
- 草刈りや農産物の出荷のお手伝いなどの地域の困りごとが事業所に持ち込まれるように。高齢化する地域の需要に応え、地域に障がい者の役割が生まれている。

労働者協同組合法の施行にあたって

持続可能な地域づくりを目指して

- 協同労働は、住民自らが地域づくりの担い手として「はたらく」ことで、持続可能な地域を想像することができる。
- 地域の文化として受け継がれてきた協同性をベースにして、既存の自治組織と調和をしながら地域の課題解決と資源活用を仕事に変えることができる。

